

B-2 山元町笠野地区

2012年6月24日(日)

報告者名	稲澤 努	被調査者生年	① 1937年(男)
調査者名	稲澤 努	被調査者属性	① 亘理町浜吉田西地区山神社氏子総代
補助調査者	なし		

被調査者(主な聞き書きは話者①から)

* 話者② 生年未確認(男)、亘理町浜吉田西地区山神社氏子総代

話者と八重垣神社の関係

八重垣神社の宮司が山神社を兼務神社としているため、山神社の氏子は八重垣神社の祭りに招待されたり、お正月にお札を配られたりといった付き合いがある。山神社の氏子は、七社会(p65参照)に参加している。山神社氏子の構成員は西区、東区、北区の3区の住民900人くらい。話者2人は西区代表である。

浜吉田の被災

(津波は)常磐道の下までやってきた。浜吉田駅のあたりで1.4メートル。松が流れてきて、ホームの間にも落ちていた。松が来なければこんなに傷まなかった。(話者①は)親戚で9人が亡くなり、1人がまだ行方不明である。

現在の暮らし

2人とも仮設住宅に住んでいる。話者①は仮設住宅でミニトマト、キュウリを植えたりしている。津波で畑はダメになった。それまでカボチャ、キュウリ、マメ、インゲン、ジャガイモなどいろいろ植えてきた。イチゴ、スイカは栽培したことはない。

お天王さま祭りについて

祭りには人がたくさん来る。宵祭には花火もあった。自分たちが小さいころは、暑いので途中で水浴びしたりしながら、線路伝いに歩いて祭りにやってきた。祭りでは、お神輿は海へ帰る。今はテレビなどがあるが、当時娯楽は何もなかったから本当に楽しみだった。



写真1 植樹祭を待つ話者ら



写真2 酒を供えられた仮お社